北里大学における生成 AI の利用に関する学生向けガイドライン　Ver.1.0

2026 年 4 月 1 日版

１．はじめに（本ガイドラインの目的）

近年、急速に普及する生成 AI は、文章作成、翻訳、要約、画像生成、プログラミング支援など、活用範囲が広まっています。今後はさらに技術革新が進み、社会のあらゆる場面において影響力を持つと考えられており、その結果、私たちの生活や社会活動にも革新をもたらす可能性を秘めています。本学では、このような大きな可能性をもつ生成 AI を本学の教育研究活動で有効的に利活用するために、ガイドラインを策定しました。

生成 AI は学修を補助する有用な道具となり得る一方で、使い方を誤ると、不正行為、成績評価の不公平、個人情報の漏えい、誤情報の拡散など、さまざまな問題を引き起こす可能性があります。本ガイドラインは、本学の学生が生成 AI を利用する際の基本的な考え方や留意点を示す行動指針として策定するものです。禁止事項を一律に定めるものではありませんが、学生一人ひとりが責任ある判断のもとで生成 AI を活用することを求めます。

生成 AI は、本ガイドラインで示す内容のほかに、担当教員・指導教員の指示に従って利用するようにしてください。

２．生成 AI 利用に関する基本的な考え方

・本学では、生成 AI の使用について、一律に禁止することはしません。
・生成 AI は、正しく理解し適切に活用することで、自己の知識や思考を一層高め、本学及びこれからの教育・研究活動を飛躍的に向上させることも可能です。
・生成 AI は、学修の代替ではなく、補助的な手段であり、私たちの学びの質を高めるためのツールです。
・生成 AI の出力結果をそのまま正解・事実として扱ってはなりません。
・課題やレポート、研究活動の成果について、最終的な責任は利用者自身にあります。使用方法や注意点等について、利用者自身が自ら考え、行動することを求めます。
・授業や課題における生成 AI の使用可否・範囲は、担当教員の指示に従い、ルールに則って使用する必要があります。

３．生成 AI の活用が推奨される場面

生成 AI は「答えを作るツール」ではなく、「学習時の補助」として活用することで価値を発揮します。具体的には、以下のような場面での活用が推奨されます。

＊アイデア出し、テーマ設定のヒント
＊難解な内容への理解向上、解説、要約
＊学習計画や勉強方法の相談
＊外国語学習の補助（添削、会話練習、専門文書の文脈理解）
＊プログラミング学習の補助（改善案の検討、エラーの原因解説）
＊レポート作成やディスカッション発表時の準備、補助

４．生成 AI（対話型）を上手に使うコツ

対話型生成 AI（例 : ChatGPT、Gemini、Claude、Copilot）は、入力欄に質問をすると、自動で回答が生成されます。質問する際は、指示文（プロンプト）を詳細に記載することで、より良質な助言や回答を得ることができます。

≪入力参考例≫

◆「アイデア出し、テーマ設定のヒント」のとき
（悪）××について、一番良いアイデアを教えて
（良）××に関する発表をする際に、何をテーマとするか考えている。「□□」という観点で想定される発表テーマの候補を 3 個提案して

◆「難解な内容への理解向上、解説、要約」のとき
（悪）この問題の正解を教えて
（良）この問題の答えが△△になった理由を、分かりやすく解説して

◆「レポート作成やディスカッション発表時の準備、補助」
（悪）○○に関するレポートを作成して
（良）○○に関する以下の文章について、内容が伝わりにくい点、説明が足りない点を指摘して

≪プロンプトのコツ≫

①具体的に指示する	誰に、何を、どの条件で、どのような形式で出力してほしいか明確にする。
②役割を与える	視点や専門性を踏まえた回答を希望する場合、「あなたは●●（立場、役職、人物像）です。」のように、回答してほしい人物像を指定する。
③制約条件を加える	「××字以内で」「箇条書きで」「分類して」など、細かい条件を補足し、得たい回答をより明確とする。
④情報を提供する	回答の精度を高めるため、資料やニュースのテキストを張り付けて指示する。
⑤反復して改善する	より深い議論を引き出すことや、回答を修正するために、一度の質問・回答で完結せずに、対話を重ねる。

４．授業・課題における扱いについて

・授業、レポート、試験、発表、研究活動等で生成 AI を使用する場合は、必ず授業科目ごとに、担当教員に確認の上、指示に従ってください。

・担当教員が生成 AI の使用を禁止または制限しているにもかかわらず使用した場合は、学修上の不正行為として判断されることがあります。

・使用が認められている場合でも、使用方法や範囲（例：構成案のみ可、文章生成不可等）が指定されることがあります。また、担当教員の指示により、どの部分において生成 AI を活用して作成したかを明示することが必要になる場合があります。

５．自学自習における扱いについて

・自学自習時に生成 AI を適切に活用することで、学習効果の向上が期待されます。例えば、文章の要約や翻訳、用語解説に加え、学習内容や自らの思考の整理など、多様な場面において主体的な学習を支援する補助ツールとして活用することが考えられます。

・文章やデータの要約のために生成 AI を活用した際は、一次情報（原文・元データ）を改めて確認・解読することで、理解を深めることができます。

・生成された内容を理解することや、妥当性を判断する責任は自身にあります。生成 AI を自学自習で利用する際は、「６．生成 AI を利用する際の主な注意点・リスク」で挙げている各項目を十分に理解した上で活用してください。

・生成 AI に依存しすぎると、皆さん自身の思考力や表現力、文書作成能力などを発展させる機会を失ってしまう可能性があります

６．生成 AI を利用する際の主な注意点・リスク

（1）不正行為との関係

・生成 AI が出力した文章や解答を、自身の成果物としてそのまま提出することは、剽窃や盗用とみなし、不正行為に該当する可能性があります。

・本学が課題やレポート、試験で求めるのは、「自分で考え、作成した成果」です。生成 AI の出力内容をそのまま書き写したことが確認された場合は、不正行為と判断することがあります。各学部・研究科の取り決めに従い、不正行為については厳格な対応を行います。

・出典の明示や、生成 AI を参考にした旨の記載を求められる場合があります。

（2）成績評価の公平性

・生成 AI の利用について、学生間で条件が異なる場合、成績評価の公平性を損なうおそれがあります。担当教員が定めたルール（使用可能とする生成 AI ツールを含める）に従わない利用は、不公平な評価につながるだけでなく、評価対象外や減点の原因となることがあります。

(3) 個人情報・機密情報の不適切な取扱いのリスク

・生成 AI の多くは、入力された情報を学習データとして利用するとともに、外部のサーバに送信・保存される可能性があります。

・以下の情報を入力してはいけません。

① 自分や他人の個人情報（氏名、学籍番号、連絡先等）

② 未公開の研究データ

③ 大学や研究室の内部情報・機密情報

④ 実習施設等での患者情報や施設内部の情報

・個人情報や機密情報の入力は、情報漏洩や法的リスクを伴う、重大な問題につながる可能性があります。

・入力した情報を AI の学習やモデル改善に利用されないよう、必要に応じてオプトアウトの設定を行うようにしてください。

(4) 誤情報（ハルシネーション）や偏り（バイアス）への注意

・生成 AI は、事実と異なる内容や、存在しない文献・データをもっともらしく提示することがあります（ハルシネーション）。

・生成 AI で出された情報を無批判に受け入れるようなことはせず、必ず一次情報や信頼できる複数の資料と照らし合わせて事実確認をしてください。

・特に、学術的な内容や研究活動においては、誤情報をそのまま用いることは重大な問題となり、研究不正に該当するおそれがあります。

(5) 著作権侵害への注意

・生成 AI が出力した文章や画像等が、既存の著作物と類似している場合があります。

・特に、学術的な内容や研究活動においては、誤情報をそのまま用いることは重大な問題となり、研究不正に該当するおそれがあります。

・無断で著作物を利用・提出することは、意図していなくとも著作権侵害となる可能性があります。

・引用ルールや著作権に関する基本的な考え方を理解した上で利用してください。なお、引用や著作権は、「レポート作成のためのガイドライン（北里大学一般教育部／高等教育開発センター編）」で説明しています。後述の参照情報より確認してください。

(6) 倫理的影響・社会的責任

・生成 AI は、偏見や差別的表現、不適切な内容を含む出力を行うことがあります（バイアス）。社会に存在する偏見や差別等、不公平・不正確な情報を生成することもあります。

・他者を傷つける表現や、架空のデータ文献の生成、偏見・差別を助長する文章・画像の生成・拡散することは、学術的・社会的に不適切な行為のため避けてください。

・大学で学ぶ者として、高い倫理観と社会的責任を持って行動することが求められます。

(7) アカウント停止にならないための注意

・生成 AI ツールを提供する企業等が定める使用禁止事項（※）に違反した場合、AI ツール及び関連サービスのアカウントが凍結されてしまうことがあります。

・特に、大学から与えられたアカウント（Google、Microsoft 等）で禁止事項に違反した場合、大学全体に影響を及ぼすことがあると理解して利用してください。

> ※使用禁止事項例
>
> 危険及び違法な行為に関するコンテンツの生成、セキュリティを侵害する行為、プライバシー侵害に関連する行為、生成したコンテンツを使用した不正・詐欺行為　等

７．研究活動における扱いについて

・外部に公開されていない研究に関する重要な情報を生成 AI に入力しようとする場合は、必ず指導教員に相談してください。

・生成 AI で作成したものを発表やレポートに用いる場合は、指導教員と相談のうえ、必要に応じて生成 AI を利用したことを明示してください。

・研究活動時における生成 AI の利用範囲・利用方法については、指導教員の方針に従うようにしてください。

８．困ったとき・判断に迷ったときは

・生成 AI の使用について判断に迷う場合は、担当教員・指導教員に事前に相談してください。

・不正行為や情報の取り扱いに関する一般的な疑問は、学部・研究科事務室に相談することも有効です。

９．おわりに

生成 AI は、正しく使えば学習や研究の質を高める可能性を持つ一方、使い方を誤ると深刻な問題を引き起こします。本ガイドラインを参考に、生成 AI の特性とリスクを理解し、自ら考え、学ぶ姿勢を大切にして活用を心がけてください。

なお、このガイドラインは 2026 年 4 月 1 日現在の状況をもとに作成したものです。生成 AI に関する技術は急速に進展していることから、ガイドラインは継続的に見直しを行い、最新の情報を反映させるようにいたします。

［参照情報］

- 【北里大学一般教育部／高等教育開発センター編】
  レポート作成のためのガイドライン
  https://www.kitasato-u.ac.jp/cdhe/download/report_guideline_vol4.pdf
- 【文部科学省】大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）
  https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/mext_01260.html
- 【文部科学省】初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ（Ver.2.0）
  https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html
- 【文化庁】AI と著作権について
  https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html